

□日時：2020年（令和2年）11月29日（日）13時～16時半頃
□場所：ウエルパルクまもと（熊本市中央区大江5丁目）ホール

第14回「ピースくまもと」設立準備会事務局会概要報告 12/5版

1 開会挨拶

……ピースくまもと設立準備会事務局会代表 小山和作

本日は前回までに修正協議した趣意書・アピール文の完成に向けて、さらに協議が深まるようお願いいたします。また、受け皿として会の透明性を図る意味からも法人化の課題もあるので、本日説明提案を行いますので、こちらについてもご意見を申し上げます。



小山和作代表の開会挨拶

2 参加者自己紹介（各自の近況・活動状況等の紹介 ※順不同敬称略）

- 参加：小山和作、安藤富士記、上村真理子、上田欣也、矢加部和幸、宮川和夫、吉田正昭、堀 浩太郎、高谷和生
- 欠席：久米野安俊、有馬信一、三隅康資、多田喜一郎、高野誠二、末永 崇、二見正輝、勝又俊一、伊藤利明、戸崎孝行、永田 昭、赤瀬 恵、青木 栄、山野幸司、宮本英一、
- オブザーバー：本田清悟、中山 直、鄭 一止、黒木伸男、児玉望、中慎一、中宮俊幸、船崎三義、乃美勝彦
- オブザーバー参加：熊本県社会福祉課河端剛毅主任主事、熊本市政策局総合政策部政策企画課吉坂光輝副課長、熊本市教育委員会事務局教育総務部熊本博物館坂本康祐館長補佐

3 概要報告・全体協議

(1) 各部会等協議の確認

ア A部会：コンセプト

- 北九州市立「(仮称) 平和資料館」の概要 [資料1・2](#)
「第7回空襲・戦災・戦争遺跡を考える九州・山口地区交流会北九州集会」での、北九州市総務課田爪課長による概要報告資料の紹介
- 概要は、北九州市小倉北区城内4番（勝山公園駐車場・市有地）、940m²、展示室・企画展示室・収蔵庫・多目的室・事務室、1階建て・鉄骨造、事業費8億円
- 戦前の北九州から空襲へ、戦後の復興への全体ストーリー性を、熊本の資料館も大切に進めていきたい。



ホールでの全体協議の様子

イ B部会：調査・展示・保存

- 熊本博物館の近現代コーナー展示の見学、収集戦時資料の実見の概要
熊本独自の豊富な寄贈資料を実見できた。特に7/1空襲後での檄文やM69焼夷弾の貴重な資料に驚いた。現物資料の持ちきゅう訴力
- 系統的な資料展示やすごろく玩具、熊本空襲でのE46焼夷弾の解説図等をさらに工夫をしていただければさらに充実した展示になるのではないのでしょうか。
- 八代高校での上村さんの出前講座：1年生・11/20実施 [資料3](#)
「戦争による学園生活の変化 ～軍国少年少女時代～」
紙芝居と生の戦時資料による講話となり、今後の本会活動の参考となる事例である。
- 県内小中学校での県内修学旅行での平和学習
荒尾市緑が丘小学校では、阿蘇方面への修学旅行での平和学習としての菊池飛行場・資料館見学を実施。熊本学園大学附属中学校では、広島・関西方面への平和学習の補完としての荒尾二造と万田坑を対象として計画したが、クラスター発生で中止した。

ウ C部会：体制整備

[資料4・5](#)

- 事務局としては資料館設立に向け、「募金受け付け」「会活動の充実」を図り公益性・信頼性を担保する為にも法人化が必要であると考える。手立てとして「NPO法人」と「一般社団法人（非営利型）」の2種が考えられる。
- 併せて法人化に向けて、事務局体制整備（代表者・事務局長・会計・監査・事務局員等）の整備も至急検討していく必要がある。
- 「NPO法人」と「一般社団法人（非営利型）」でのメリット・デメリットがあり、安藤さんの説明、併せてウエルパルクまもと担当職員からの説明を受け・質疑を行う。
- 具体的には、「口座開設では代表が必要」、「募金・寄付は収益ではないので、課税対象とはならない」、「募金に伴う税控除は、個人で確定申告を行う必要がある ※認定NPOでは税優遇はあるが、2カ年活動実績が必要」、「設立要件として社員は、NPOでは10人、一般社団では2名が必要」、「法定設立にともなう期間は、NPOでは3～6ヶ月、一般社

- 団では1ヶ月程度を要する」、「NPOでは毎事業年度の事業報告書7種の提出・報告の義務がある」、「NPOでは情報の公開性・貸借対照表等の公開義務（会HP・縦覧等）がある」、「NPOの解散は、官報掲載が要件で最低3万円必要で、かなり煩雑でもある」
- 会運営のために会計口座と、募金受け皿としての口座が必要で、会計は別々に運営か。
 - 今後は市民グループ・運用団体のスタイルではなく、「法人化が必要」であると全員意見が一致する。
 - 次回には具体的に提案したい。

(2)「熊本に戦争と平和のミュージアム建設を呼びかける会アピール・趣意書（案）」の検討 資料3

- 本日3回目の協議であり、本日でほぼ文面完了したい。
- 表題は「設立趣意書」とし、「呼びかける会もしくは準備会」名としたい。
- 第1段落での「平和なとき」は、全体調としてそのまま認識したい。
- 第2段落での「露と消えた」、「祖国の発展と同胞の幸せを願いつつ散っていった」、「熊本の誇る第六師団」の標記は、特定の歴史観に立入すぎているのではないか。戦争賛美との誤解を受ける懸念があるように思う。
- 「国策」表記では、国が戦争を進めてきた責任の問題があるが、国民の戦争への関与や責任からの意味からも外す。
- 体験世代の方々のうたえる力の思いは十分に認識できるが、戦後世代の人々が先の大戦を客観的に見たときに、趣意書内容への理解には至らないのではないか。
- 呼びかけ人・発起人・賛同者の賛同を得て、多くの県民への理解を進めるために、賛同しやすい様に、トーンを落とした平易な文章が良いのではないか。
- 「国外で戦争する国になる」は外し、「多大な迷惑」は、事実を示し「を」とする。
- 第3段落は、全国・県内の事例を最小限入れる。
- 第4段落は、B案「また、明治十年……」とする。呼びかけ人への「熊本県知事・熊本市長」名は外す。
- 次回で確定案を示したい。

(3)「熊本に戦争と平和のミュージアム建設を呼びかける会 候補（案）」の検討 資料4

- 前回小山さん作成私案で、エクセル表（候補者・所属、住所、連絡先、対応車、本会担当、備考）として様式を整えた。
- 今後は諸データを追加して、各人からの協力を得て、全体表の完成にもっていきたい。
- 小山案では個人名のみとし所属は外したい。ただ、趣意書を受け取られた一般の方々の理解を進める必要がある。

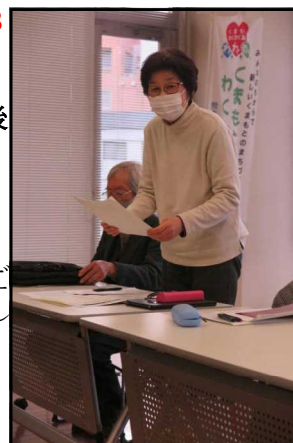
4 連絡事項、その他

- 次回「第15回ピースくまもと設立準備会事務局会」は「12月13日（日）午後1：30～」 ウェルパルクまもと会議室
- さらに「第16回ピースくまもと設立準備会事務局会」は「1月31日（日）」、「第17回同会」は「2月21日（日）」で、共に午後1：30～・ウェルパルクまもと会議室

5 閉会挨拶

……ピースくまもと設立準備会事務局会副代表 上村真理子
ご参加いただきました県・市からは「法人化や呼びかけ人」等への的確なご助言をいただきありがとうございました。趣意書もほぼ体裁が整ってきたので、次の事務局体制拡充、法人化問題について議論を進めてきましょう。

上村真理子副代表の閉会挨拶



連絡先

ピースくまもと設立準備会 事務局 高谷 和生
 自宅 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5
 個人携帯 090-1513-5528
 Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
<https://kumamoto-senseki.net/peace-kumamoto/>